

(2018年度) 第7回応用地形判読士資格検定試験 二次試験問題

[午後の部]

実技試験の注意事項

- (1) 実技試験の実施日時は、2018年12月1日(土)の10時0分から15時0分までとする。
 - ・午前の部：10時0分から12時0分までの2時間。
 - ・午後の部：13時0分から15時0分までの2時間。
- (2) 試験開始後1時間は、退場を認めない。
- (3) 解答は、図示を求める問題に対しては[地形図]と[記号凡例用紙]に、記述を求める問題に対しては[マス目入り答案用紙]に、それぞれ記入すること。
☆ [地形図]と[記号凡例用紙]および[マス目入り答案用紙]には、受験番号を必ず記入すること。
- (4) 指定した読図範囲について、問題にしたがい読図すること。実体視できる範囲については、読図に加え空中写真判読を行うこと。
これらの結果は、その地形図に図示すること。図示するにあたり、地形種の輪郭は明確に記入すること。ただし、地形種は、地形判読記号、色、模様などにより判別できる程度としてもよい。
- (5) 地形図に記入する地形判読記号、色、模様などは、特に定めない。ただし、使用した地形判読記号などは、別に配布してある[記号凡例用紙]に記入すること。
- (6) 試験の開始にあたり、印刷に不鮮明な点がないことを確認すること。
- (7) 試験開始後は、参考書籍のほか、携帯電話など電子機器類の使用は一切禁じる。また、携帯電話など音を発生させる機器類は、必ず電源を切ること。
- (8) この注意事項の説明後は、原則として質問に応じない。
- (9) 試験終了後、この問題用紙は持ち帰ってもよい。
ただし、①地形図、②記号凡例用紙、③マス目入り答案用紙、④空中写真は、机の上に残すこと。

◇ 〔地形図〕 と 〔記号凡例用紙〕 および 〔マス目入り答案用紙〕 には、

受験番号 を必ず記入すること。

《問 題》

1. 次の a) と b) の結果を、地形図上に図示しなさい。

図示するにあたり、次の点に注意すること。

1:25,000 旧版地形図：昭和 23 年資料修正

空中写真：1962 年撮影

a) 地形図に実線で示した範囲について、地形図読図と空中写真（コース番号：C9A）判読によって、地形を分類しなさい。その際、応用地形学的に特徴づけられる主要な地形に重点をおいて分類すること。

地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号凡例用紙〕に記入しなさい。

b) 地形図に破線で示した範囲について、空中写真（コース番号：C11）より、活断層と判読できる地形があれば、①その位置を示し、②活断層であると判読した地形的な根拠を示す場所にキーワード（例えば、横ずれ、第四紀層の変位など）を赤文字で書き込みなさい。

2. 地形図に実線で示した範囲で想定される重大な自然災害を 3 つ挙げ、その地形・地質的な根拠を、マス目入り答案用紙に 800 字を超えないように記述しなさい。必要に応じ、地形図中の参照する地点・地域に、記号、番号などを付してもよい。

<参考>

地 形 図 国土地理院 25,000 分の 1 地形図「祇園」（昭和 23 年 8 月 30 日発行）

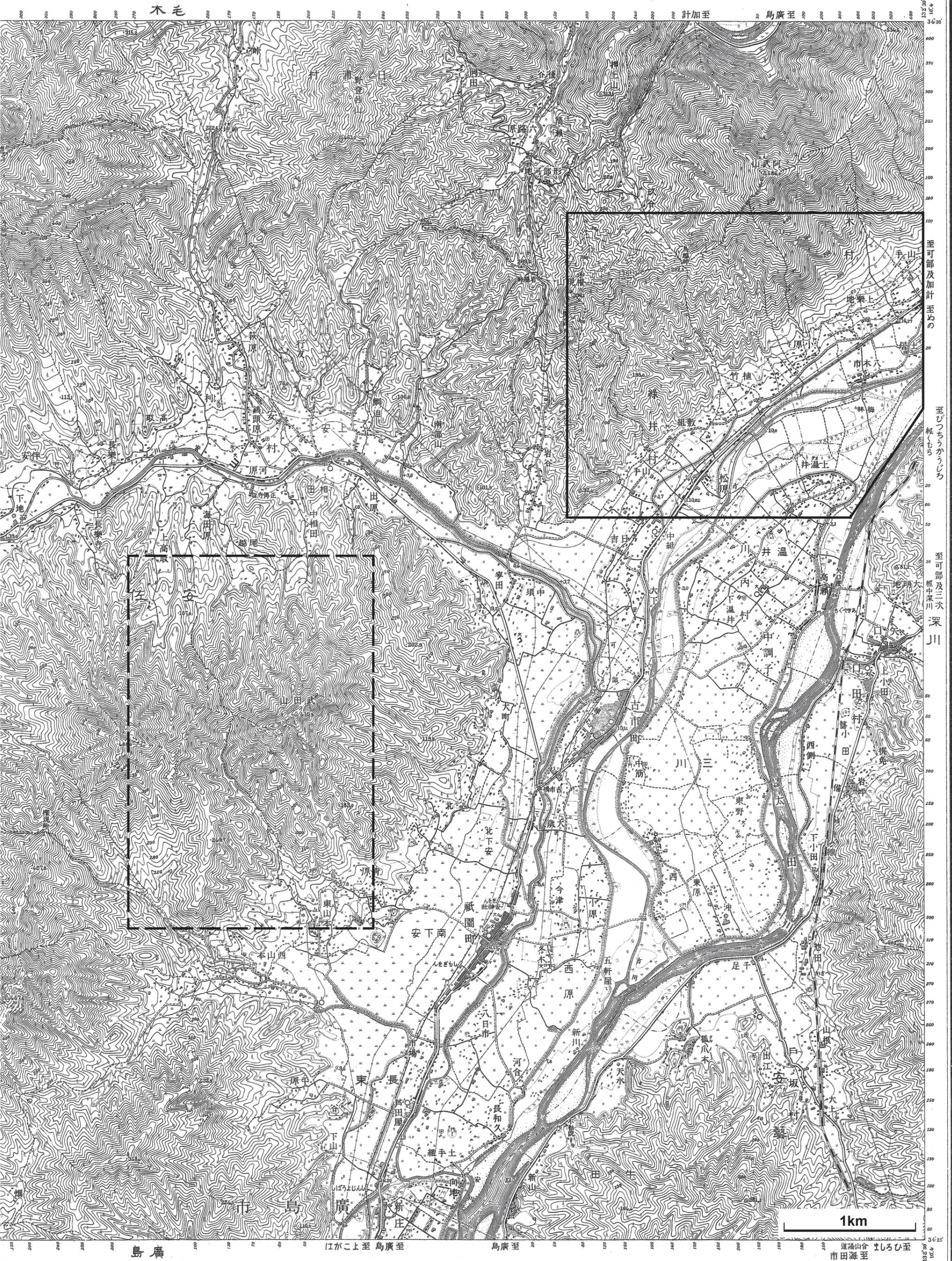
空中写真 整理番号：MCG62-8／コース番号：C9A／写真番号：13-15

整理番号：MCG62-8／コース番号：C11／写真番号：10, 11

園 祇

受験番号

市島廣 郡藝安 國藝安 縣島廣
郡佐安 郡伯佐



至可部及加計至の
経緯

至可部及三次
深川

道湯山舎
市田海至